

「丹後ちりめん」産官学コラボで素材情報発信 【丹後織物工業組合】

丹後は、日本で生産されるきもの用表生地 の 6 割強のシェアを持つ絹織物「丹後ちりめん」を主として生産する織物産地です。また日本で使用される生糸の 3 分の 1 はこの丹後地域で消費されており、日本一の絹織物産地でもあります。

しかしながら様々な要因の中で和装需要の減退が大きく響き、きもの素材である白生地織物の生産量も大きく減少してきました。

そんな中で産地では今、業種を問わず方向性を同じくする機業が目指す商品アイテム毎にタグを組み、デザイナー、プランニング会社などのコーディネートの元に海外展開をも視野にして、新たな素材展開に向けての取組みが進んでいます。

各機業がそれぞれ携える自己の持つノウハウで製作された単品商品による売り込みでは商品展開が難しいこともあり、バリエーション豊かな産地の商品を明確なコンセプトのもとに総合的にコーディネートし、新しい市場に向けて提案するものです。さらに共同開発、共同販売体制を構築することで、従来の流通を整理し、より消費者に近いところでの商いを目指すものであり、各プロジェクトで熱いものづくりを展開しているところです。

また産地組合の動きとしては、以前から単発的には素材展示会向けにコスチュームデザインを学生に依頼して制作してきたことはありましたが、数年前から地元行政の支援を受け、産官学で新しい織物用途の開拓を目的に、ファッション関係の大学、専門学校等と連携し、学生の希望する産地素材を提供しながら制作課題に取り組み、コレクション等の場で産地、素材の PR を行ってきました。

平成19年度は、東京・大阪・京都それぞれの3校の服飾デザイン系学校と連携し、丹後シルクによる



青山・スパイラルでのコレクション

コレクションの制作を進め、平成20年2月に東京・青山のスパイラルにおいて展示及びファッションショーを開催しました。ファッションの発信地であるこの地に集まる若い世代に向けて、シルクの感性とバリエーションをアピールすると共に、産地からの情報を都心に向けて発信しました。



織物加工施設の見学(丹後織物工業組合・中央加工工場)

平成20年度はさらにこの交流事業を拡大し、春には関西地域でコラボレート可能な服飾デザイン系学校を募集、応募のあった学校より9校を選定し、制作アイテムに沿った丹後のシルク素材を提供する中で、現在制作が進められてきています。

また並行して産地、織物に関する知識の修得と、織物素材が作られるまでの実際の生産、加工現場を直接体感してもらうために産地研修・見学の受け入れを行い、また要請に応じて産地から直接学校に赴いて産地、素材の理解を深めるためのレクチャーを行っています。

こうした連携の中で、将来日本の服飾業界を担う若い世代が伝統産地、伝統素材に直に接することにより、将来的に産地のプロモーションに大きく繋がることに期待するものです。

この春に向けて、各校で様々なプレゼンテーションの機会を通し、若い学生諸君により伝統的な素材である丹後ちりめんが最先端のファッションとして蘇る日が待たれるところです。

○丹後織物工業組合(野村)

住所: 京都府京丹後市大宮町河辺3188

電話: 0772-68-5211

(次回は1月30日付に掲載予定です。)